

様式第4号（第11項関係）

審議会等の会議の記録

審議会等の名称	平成30年度第3回西脇市まちづくり推進審議会
開催日時	平成30年12月25日（火）午後7時00分～9時00分
開催場所	西脇市生涯学習まちづくりセンター 会議室2
出席委員の氏名 又は人数	直田春夫会長、岸本信子委員、藤井琢己委員、藤原悟委員、小出茂夫委員、清水賢一委員、肥田雅之委員、高橋章子委員、篠田善健委員、富永信義委員、小林茂夫委員 計11名
欠席委員の氏名 又は人数	黒崎晃史委員、徳丸徹委員、米田育子委員、吉川勝子委員、大前道廣委員 計5名
出席職員 の職・氏名 又は人数	都市経営部長 筒井研策、まちづくり課長 池田正人、まちづくり課主幹 笹原祥市、まちづくり課主査 山上公平、まちづくり課主任 和田裕行、まちづくり課職員 遠藤香里 計6名
公開・非公開の別	公開
非公開の理由	—
傍聴人の数	0名
議題又は協議事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 会長あいさつ</li> <li>3 報告事項             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) まちづくり活動審査部会審査報告について</li> </ol> </li> <li>4 協議事項             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 答申書（案）について</li> </ol> </li> <li>5 参画と協働に関する意見交換</li> <li>6 その他（今後の予定）             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 第4回西脇市まちづくり推進審議会</li> </ol> </li> </ol>
会議の記録（概要）	
発言者	発言内容等
	<b>1 開会</b> <b>2 会長あいさつ</b>
部会長	<b>3 報告事項</b> <b>(1)まちづくり活動審査部会審査報告について</b> 10月22日に西脇市地区まちづくり実践補助事業2団体及び西脇市市民提案型まちづくり事業1団体の申請に係る審査を実施し

た。地区まちづくり実践補助事業のうち「西脇区まちづくり委員会」については前期・後期に分けての申請を続けているため、申請方法について検討いただくべき点はあるが、様々な活動を企画し、その活動によって希薄化するコミュニティの再生を図ろうと努力をされている点を評価し、申請どおりの補助金採択の審査をした。ただし、防災訓練の経費の精査や次期の計画は通年分での企画をしていただくといった審査部会の意見を付託させてもらった。「野村地区まちづくり推進協議会」については、策定から10年が経過している地区まちづくり計画の再編事業に係る経費ということで、こちらも申請どおりの補助金採択の審査をした。市民提案型まちづくり事業では「西脇市を考える会」から市政活性化のために多くの市民に市政に関心を持ってもらうための事業提案があり、若い世代も含めて市政への参画を促す目的で進められるとのことであったため申請どおりの補助金採択の審査をした。ただし、特定の意見の支持をするような政治的な活動や選挙運動等につながらないよう慎重な事業実施をしていただくという意見を付託させてもらった。以上3件について要望どおりの補助金採択が妥当であるとして審査部会の審査結果の報告とさせてもらう。

部会委員

「西脇区まちづくり委員会」の防災訓練の経費については、炊き出しに係る材料費について精査する旨の意見を付託した。

部会委員

「西脇区まちづくり委員会」の事業については、例年行われている取組を継続して行うものが多いため、他の地区と同じように年間の事業計画を立てた補助金の申請が適切と考え意見付託をした。「野村地区まちづくり推進協議会」の計画再編事業については、事業実施に係るまちづくりアドバイザーへの委託料が主であるが、今年度単年で実施するのではなく、来年度にかけて継続して行うとのこと、その後も引き続いてアドバイザーに助言をいただくというつながりもあるため、選定についてはその点を考慮して進めていただきたいとコメントをさせてもらった。市民提案型の「西脇市を考える会」については部会長の報告でもあったが、政治的なことも事業の中では当然考えていくと思うが、行政からの補助金を活用する上で、構成メンバーで特定の政治活動を応援するようなことや、事業自体が政治判断に影響を及ぼすような内容があるなどすれば事業の意味合いも変わってくるため、その点に特に留意して事業を進めていただきたいと考え、審査部会としての意見付託をした。また、若い世代に市政に興味を持ってもらうという目的がありながら、旧来型の、各種団体の役員に声を掛けて参加をしてもらう計画であったため、もう少し効果的な周知方法を考える旨のコメントをさせていただいた。

会 長	<p>部会委員の皆さんには、ご報告のとおり申請に対して活発に意見を交わしていただき適正な審査をしていただいた。各団体においては付帯意見に則って活動を進めていただければと思う。</p> <p>ここで、まちづくり活動の審査についてのご質問を委員から事前にいただいているため事務局から説明をお願いする。</p>
事 務 局	<p>・事務局からまちづくり活動審査部会の審査に関する質問を「平成30年度第3回まちづくり推進審議会御質問等」に沿って説明</p>
会 長	<p>審査部会が審査上で付託した意見については絶対的な強制力はないものの、方向性としてお願いしたいというものなので、今後も適正な補助事業の実施を働きかけていきたい。実施団体にはきっちり受け止めていただき事業を進めてもらいたいと思う。</p>
委 員	<p>審査部会の皆さんからも意見があったが、私としても政治的に補助金が使われるということが一番心配するところだ。今回申請されている事業の内容を拝見すると、若い世代を中心に市政に参画する機会をつくるという文言があるが、そこに主義的なものが入ってきたり、それを広める目的に変わってきたりということにつながる恐れはあると思う。今後はもう少し補助金の交付対象事業等について内容を検討し、整理する必要もあるかと考える。</p>
会 長	<p>若い世代の市政への参画を促すこと自体は、若い世代が政治に無関心であるという世の中の風潮に対して啓発する意味でも良いことと思うが、委員がおっしゃるように特定の主義・主張や政治活動に偏っていくとそれは補助事業としてよくない。補助金を交付する事業については宗教等に関連するものや特定の候補者を支援するような政治的な活動など、いわばNPO法に記載されている限定事項のようなことはふさわしくない。今後のことを考え、ある種の判断基準の作成は必要かもしれない。</p>
委 員	<p>市民が市政を考えていくというのは必要なことかもしれないが、市政への参画を促す取組は行政の範疇ではないかと思う。行政主導で進めていかなければ、取組を進めようとする個人に対し様々な意見が出てくるのが当然かと思う。市民の立場で進めていけばどうしても特定の政治的な活動に偏ることも懸念されるし、市政の向かうべき方向に向かったの住民の市政参画が実は重要であると考えるので、やはりこの種の取組は行政が主導して市政への参画を促していくことが望ましいと思う。</p>
会 長	<p>将来的には補助要件等に関しての議論も重ね、判断基準等を明確にしていくことも考えていきたいと思う。</p>
事 務 局	<p><b>4 協議事項</b>  <b>(1) 答申書（案）について</b>  ・事務局から資料2「地域自治協議会モデル事業の検証等について</p>

会長	<p>て（答申）」（案）について説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・続けて答申書（案）に関する質問を「平成30年度第3回まちづくり推進審議会御質問等」により説明</li> <li>・会長から、平成29年度第1回まちづくり推進審議会で諮問された内容を諮問書に基づき説明、確認</li> <li>・続けて会長から資料2「地域自治協議会モデル事業の検証等について（答申）」に沿って項目ごとに解説</li> </ul>
会長	<p>諮問された中で地区まちづくり実践補助事業及び市民提案型まちづくり事業の企画書の審査に関する答申は別途提出している。今回提出する予定の答申は「一括交付金を活用した地域自治協議会モデル事業の検証及び本格実施に向けた制度設計についての審議会としての意見」ということとなる。資料2の答申書（案）で言えば1から4の項目が地域自治協議会事業の本格実施に向けた制度設計に対する当審議会の意見となっている。</p>
事務局	<p>委員から事前にご提案をいただいた「地域自治協議会モデル事業の検証」についてももう少し答申書内に詳しく盛り込んだらどうかということだが、実際に2地区がモデル事業を実施し、それまでの地区まちづくり事業とどのように変化したのかなどを答申書に盛り込むのが良いか、改めるのであれば前文に事務局提案のように説明を少し詳しくした文章にするのが良いか、あるいは別で資料を準備するのが良いかなど皆さんのご意見を伺いたい。</p>
事務局	<p>答申書（案）の項目2について、後半の「市税収入等に比例した積算となるよう配慮した制度設計に努められたい。」という部分で、積算方法等について具体的な内容を書かない形になっているが、説明がなければ分かりにくい部分もあるため、例えば「…積算となるよう配慮し、個人市民税の1%相当を総額とした上で均等割20%、人口割80%として地区へ配分するよう制度設計に努められたい。」などとして具体的な説明を盛り込む方が良いか、あわせて委員の皆さんのご意見をお聞かせ願いたい。</p>
会長	<p>事務局からの説明のように、一括交付金の積算に当たっての記述について一括交付金の総額に係るものや均等割、人口割での配分方法を書き込むことについてもご意見を伺いたい。</p>
委員	<p>前文中あるいは内容にもう少し詳細な地域自治協議会モデル事業の検証結果についてのことを盛り込む方がよいと思う。</p>
委員	<p>事務局から説明をいただいたように一括交付金の積算等に関する所を詳しく明記するのであれば、他の項目についても当審議会で議論した内容等を事例として詳しく盛り込んだ方がよいかと思う。例えば項目1の内容で「合意形成に向けた支援」という箇所があるが、具体的にどういうことが合意形成に向けた支援となる</p>

<p>会 長</p> <p>事 務 局</p>	<p>のかを読み取るのは難しいように感じる。比延地区や黒田庄地区に続いて他の地区が地域自治協議会を立ち上げて進めていこうとなった時に合意形成の方法などのノウハウがない状況であるため、どのような方法で支援をするかなど情報があれば出していたら、答申書に盛り込められればよりいいかと感じた。</p> <p>モデル事業の検証についてはもう少し詳細な説明が必要だと感じるが、答申書本文に説明を入れずとも参考別紙という形で作成しても良いかと思う。地域自治協議会が立ち上がる前と後でその効果を定性的・定量的に記載できれば、これから地域自治協議会の設立を目指す地域にとっても参考になるのではないかと思う。</p> <p>「合意形成に向けた支援」について、ここでは特に地域の中での地域自治協議会の設立についての合意形成に向けた支援を指すが、必ず実施するというのではなく、その内容としてどういうものが考えられるのか記載することは可能か。</p>
<p>会 長</p>	<p>これまで地域自治協議会の設立支援として地区の円卓会議の開催により設立への合意が図られたということがあったため、例として「円卓会議を開催するなど」といったことは記載できる。</p> <p>このような合意形成を図る場合は、地域の役員だけでというよりは広く住民に声を掛け、地域自治協議会がどういう組織であるかという議論をすることで、必要性などから合意が図られていくものだと思う。そういう意味では円卓会議でワークショップを重ね、必要に応じてアドバイザーを派遣することなどが設立支援になると思う。そのようなことを例として記載する方向で良いか。</p> <p>◇全員賛成</p>
<p>会 長</p> <p>委 員</p>	<p>それでは例に何を挙げるかは任せてもらうとして、コンパクトな表現になるよう留意しながら修正する。</p> <p>検証結果については地域自治協議会ができてどう変わったかということをはっきりと明らかにすることで他の地域に対する効果もある。ご提案いただいたように本文に書くか、あるいは別紙にまとめ参考資料として添付することもいいように思う。ただ、今回はモデル事業の検証といっても事業評価をするということではなく、地域自治協議会ができてどのような効果があったかを認識することが重要だと考えるので、その方向で調整できればと思う。</p> <p>答申書本文の文章が長くなると読みづらくなるので工夫が必要かもしれないが、モデル事業の検証についてはもう少し詳しく記載しても良いと思う。また、項目1の合意形成に関して、比延地区でも地域の皆さんがどれだけ理解した上で地域自治協議会が設立され、事業を進めているかという点はまだ十分ではないので、例えばどのような方法で円卓会議を行い、どのような方々に集まっ</p>

<p>委員</p>	<p>でもらうのがよいかなどが分かる形にしてもいいと思う。</p> <p>モデル事業の検証に係る前文中の「…幅広い活動が着実に展開されたため」という部分についてだが、私は持続的なまちづくりを展開されていることをうたいたいと感じるため、現在進行形の、例えば「展開されている」などの表現の方が良いのではないかと思う。前文自体の記載については私ももう少し詳しく記述しても良いと思うが、カギとなるのは「地域課題の解決、地域コミュニティの活性化」の2つのことと思う。答申であるため具体的にという訳にはいかないが、この点に関しての成果的な記述をもう少し盛り込み、十分に図られているということが分かればモデル事業の検証になるのではないかと思う。また、まちづくり活動を進めていく上で一括交付金はこれまでとは大きく違う部分であり、意味のあるものであるため「一括交付金のメリットを生かして」という意味の文言は入れた方がよいと思う。</p> <p>次に項目1の冒頭で「地域自治協議会モデル事業の仕組みについて」となっているが、目指すところはモデル事業ではなく地域自治協議会事業なので「モデル」は記載しなくてよいと思う。また合意形成に関してだが、地域自治協議会と既存のまちづくり協議会の違いについて住民はほぼ理解できていないように思う。そのため「合意形成に向けた支援」という時に、地域の課題や将来の構想、展望といったことを共有する場の提供を行っているというようなことが分かればよいのではないかと思う。</p> <p>先ほど事務局から説明をいただいた項目2の一括交付金の積算に関しての記述についてだが「個人市民税の1%相当を総額とし」ということについては良いと思うが、均等割、人口割の比率など具体的な数字を記載すればそれが独り歩きし、固定化されてしまう恐れもあるため、今後制度を柔軟に考えていくためにも20%、80%などの記載は避けた方がよいのではないかと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>委員がおっしゃるように地域課題の解決や地域コミュニティの活性化に向けて地域自治協議会があるという記載は確かにあってもいいかと思う。一括交付金の積算、配分についての具体的な20%、80%という数字はこれで固定するわけではなく暫定的に用いるものであるため何かの方法で示しておく必要はあるかもしれないが、数字を入れるか入れないかは考えさせてもらいたい。</p>
<p>委員</p>	<p>答申書の表題が「地域自治協議会モデル事業の検証等について」とあり、前文中に検証に関しての記載があるものの、項目1から4は今後の本格実施の制度設計に向けた意見となっている。そうなるとやはりモデル事業の実績を踏まえた検証の部分が少し物足りなく感じるのは確かだ。そのため、項目を設けるかあるい</p>

	<p>は別紙でまとめるなどしてもう少し詳しい記述が必要かと感じた。それが今後課題に対して取り組むための材料になると思う。表題に「制度設計について」を入れても良いかと思う。</p> <p>項目2の一括交付金の積算については、近い将来個人市民税分の市の歳入が大きく変動し、減る可能性も考えられる。市税収入が減少し、市の事業が見直されるようなこととなれば、むしろ地域自治協議会はよりその役割が大きくなってくると思う。そのようなことから一括交付金の積算及び地域への配分方法は固定化するべきではないと考えるので、項目2に個人市民税の1%相当など具体的に記述するのであれば前置きとして「当面の間」や「暫定的に」といった文言を加えるのが適当ではないかと思う。</p>
<p>会 長</p>	<p>表題については諮問の表題を受けて変え難いかと思うが、本文に制度設計についての文言を書き込むなりして考えたい。また、数字などを記述すれば後々固定化されることが危惧されるという御意見については前置きの文言を付け加えるなどして考えたい。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>市税収入等に関し、長期財政見通しなどはどうなっているか。</p> <p>前回の審議会で一括交付金の将来予測資料で見てもらったように、確かに人口減少が進み市税収入も減少傾向にあるが、当面は比較的安定して一括交付金の積算ができる予測となっている。良ければ委員にご提案いただいたように「当面の間」というような表現を用い、時期にあわせて考えていきたい。</p>
<p>会 長</p>	<p>一括交付金の積算方法等についてはこの場で決定するのではなく、最終的に決めるのは首長や議会であり、それに対して一つの選択肢を提案するのが我々の役割と思う。首長や議会からみてあまりにも非現実的であるような内容の提案はできず、指摘を受けない程度の文言にさせてもらう点は了承願いたい。将来的に1%を2%にするなど議会の承認を得られれば変えていくこともある。実際に地域自治協議会が公共的な事業を多く担い、行政が手を掛けなくても良いという領域が増えれば増えるほど交付金の金額も増やしていける可能性もある。いずれにしても今後地域自治協議会が実績を積み、証明をしていくことが重要だ。</p>
<p>委 員</p>	<p>皆さんがおっしゃるように将来人口減少が進むことを踏まえ、固定的にならないよう変動の含みを持たせた書き方をする方がいいのではないかと思う。項目3で積立金についても触れているが、いくらまで積み立てることができるのかなど、ある程度決めていく方が今後やりやすいかと思う。</p> <p>比延地区においては、活動自体は「ええまち比也野里」がメインに実施しており、活動を担っている人は比較的長年やっているが、区長をはじめとした比延地区自治協議会の理事については2</p>

会 長

年から4年で交代するので、そのことに不安が付きまとう。市からいろいろな話をいただく中で、区長の意識を醸成するような取組がもっとあれば良いと思う。まちづくりを皆で進める場合、前向きに進めるような場の空気は大事な要素だがなかなか難しい。空気づくりについて市の支援をいただければありがたいと思う。

地域自治協議会においても世代交代、継承が大きな課題であり、どこの地域でも課題として抱えていることだ。立ち上げ時の世代がよく理解をしていますが、次世代の理解がついていかないということも多く見られる。そういう意味では地域自治協議会についての手引書を丁寧に作ることで継承の手助けとなるので、答申に入れるとともに今後考えていきたい。また場の空気はとても大切な要素で、住民の納得感がなければ良い空気は生まれない。空気が良いのはすなわち大きな意味での承認の意思だと思う。良い空気づくりを進めるためには行政だけではもちろんできないが、地域とともに行政が方向を示すことは重要かと思う。

委 員

皆様のご意見をお聞きして同じように感じるが、今回は報告書ではなく答申書であり、真正面から議会へ諮るようなものでもないので、あくまでも諮問に対しての答申が基本となると思う。予算措置等に関しては議会、行政の範疇であり、当審議会の答申をもってその領域を突破していくようなものを準備する必要はないと思う。したがって個人市民税の1%相当額や地域への配分比率のようなことは付帯意見としておくのが良いようにも思う。一番良くできていると感じたのは項目3にあるように、「必要な財源を確保できるよう」という文言で、行政、議会に一括交付金の財源の確保をお願いするとともに、地域でも一括交付金を原資に積立をし、今後必要な財源を確保できるような制度設計を進めてもらいたいと整理されているのは非常に良いことと思う。

答申書に関しては詳しくすれば分かりやすくはなると思うが、それによって当審議会の範疇を超え、誰かの領域に飛び込んでしまうことも解釈によっては考えられるため、詳しくなりすぎないように留意した上で現在のものに必要なことを少し付け加え、バランスよく仕上げるのが良いと思う。例えば前文においては「〇〇の検証の結果、□□に見られるような、地域の特性を生かした△△が進んだ」など文言を付け加える程度が良いかと思う。

黒田庄地区においては「黒田庄まちづくり協議会」が設立される前は「黒田庄地区まちづくり住民会議」がまちづくり活動を担っていたが、もともと住民会議でも地区の区長会が中心となって活動を行っていたため、従来から行っていた取組の引継ぎと新たな事業の実施について、転換期に比較的うまくいったように感



<p>会 長</p>	<p>じる。また策定から10年が経過していた地区まちづくり計画の再編時期となっていたので平成28年度に地域自治協議会の設立とともに住民で計画再編に係る話し合いを重ね、できた新たな計画をテキストにして事業を展開していくこととしているため、住民全てが理解をしているとは言えないとしても、黒田庄まちづくり協議会内部では割と分かりやすい事業展開が図られていると思う。</p>
<p>委 員</p>	<p>委員がおっしゃるように、答申書にどこまで書き入れるかというところは難しいところだ。答申の性質上、行政、議会への提案程度にとどまるものであるだけに、詳しく書きすぎても良くない。</p> <p>地区まちづくり計画は市内で広く見てもらえればいろいろと参考になると思う。地域自治協議会の手引書等を作成する際にも参考になると思うので大事な資料だ。</p>
<p>委 員</p>	<p>現在の答申案だけを見れば、比延地区と黒田庄地区のモデル事業の検証をしなくても書ける内容と感じた。説明をお聞きすれば答申の内容にどのような意味が含まれているのか分かるが、答申書だけを見てもなかなか読み取れないことが多いように思う。この審議会では比延地区、黒田庄地区のモデル事業の実績検証に係るお話を多く聞かせていただいたが、そのことが答申書に出ていないように感じたため事前に質問をさせてもらった。どのような成果があったか、また課題となっていることなど、モデル事業の検証内容があって、次にその検証結果を受けた新たな観点での制度設計の話という具合に流れれば納得できる。現在の「成果がありました。これからはこれらのことを考えましょう。」というだけでは舌足らずのように思う。ただ、答申というスタイルで言えば、別紙でまとめるのが良いのか、今の形のようにあっさりとしたものが良いのかは私には難しいので迷うところだ。</p>
<p>会 長</p>	<p>確かに両地区のモデル事業の検証と今後の制度設計の話は別立てのように見えて、つながりは書かれていないものの実は実績の検証を受けて導かれたことだ。検証結果については地域自治協議会の成果や効果などを示す必要はあるかと思う。その中で地域自治協議会ができ、一括交付金があるからどのような変化が出たといったことを示せば分かりやすくなるかと思う。</p>
<p>委 員</p>	<p>地域自治協議会で一括交付金をある程度地区の裁量で活用する中で、防犯カメラの設置など町としてはなかなか取り組めないことを地域自治協議会が進めていくことで、手の届きにくかった地域のまちづくりが進んでいくこともメリットの一例だと思う。</p>
<p>会 長</p>	<p>町単位で進めにくい取組でも公共的にニーズのある分野はあり、そこに対する取組の推進を地域自治協議会が担うというのはまさに地域自治協議会があり、一括交付金の活用ができることの</p>

<p>事務局</p>	<p>成果、効果であるので、添付資料に書き込む内容にふさわしい。</p> <p>皆さんから多くの御意見をいただき、答申書をどう直すというのはこの場でなかなか提案できないので預からせていただき、私と事務局で調整し前向きなものとなるよう整理して修正を施したいと思う。ただ、いただいた意見すべてを反映させることは難しく、全体を見たうえで判断させていただき、私の裁量で事務局と作り上げたいと思うので了承願いたい。この後は原本を作り、そのまま次回答申という訳ではなく、できた時点で委員の皆さんに見てもらい承認いただく流れでお願いしたいがよろしいか。</p> <p>◇全員賛成</p> <p>委員の皆さんには、地域自治協議会についてモデル事業の検証を踏まえた上でその仕組みづくりを進めていくべきというご理解をいただき、一括交付金の制度についても前向きにご協議をいただく中で、個人市民税の1%相当を予算の総額にすることや、地域への配分比率を均等割20%、人口割80%とするといった提案につながられたという認識を持っている。そのことに関連し市議会で前回のまちづくり推進審議会の記録を参考に、地域への配分比率についての一般質問があった。その内容は均等割20%、人口割80%という比率に関して、予算額全体の20%分を事業見合いで配分する金額として枠を残した上で、残りの80%分の金額を地域への配分額とし、均等割30%、人口割70%の比率で配分するようにしてはどうかというご意見をいただいている。私どもとしてはこれまでの当審議会のご意見から、均等割20%、人口割80%の比率で積算し、時期に合わせて比率を見直すことも含めて来年度以降の展開を考えているところだ。答申は2月末頃の提出となり、来年度の予算編成作業についても並行して行っているところだが、当審議会でもいただいたご意見をもとにこれらの制度設計を進めたいと考えているのでご理解をお願いしたい。</p> <p>会長 事務局から説明いただいたように、予算化される動きは現実に進んでいることで、我々としてはありがたいことだ。答申の内容に関しても単なる抽象的なものではなく具体的に進んでいる内容のため、その流れに合うように形を作っていくたいと考える。</p>
<p>会長 委員</p>	<p><b>5 参画と協働に関する意見交換</b></p> <p>参画と協働に関する意見交換となっているが、地域自治協議会のことや地域づくりのことなどどのようなことでも構わないので、皆さんのご意見をお聞かせ願いたい。</p> <p>黒田庄まちづくり協議会については事務局職員が現在2人在籍しているが、積極的にいろいろなことに事務局自身が挑戦しており、気力のある方に協議会の事務を担ってもらっているので非常</p>

	<p>にありがたい。フェイスブックにしてもこまめに更新し、まちづくり協議会の活動を広く周知するよう動いてくれている。黒田庄地区では多くの事業を進めているが、これまでやってきたことを続けながら住民参加を促し、自分たちのために普段のまちづくりをしていこうと背伸びをせずに進めている。一つ思うことは、事務局や役員が一生懸命になればなるほど一般の皆さんはついてこないように思う。実際に行動にまでは移っていない人をどう盛り上げていくかを考えていく中で、うまく先導をしながら一生懸命になりすぎないように足並みを揃えるようにしながら進めている。</p>
<p>委員</p>	<p>比延地区自治協議会を立ち上げるまでも、なかなか合意形成が進まない時もあり2年程度はかかった。中には地域自治協議会は市役所の下請けになるのではないかという意見もあり、理解を得るために地域課題の掘り起こしから意識の共有まで地道に話し合うなど雰囲気作りに努めてきた。回を重ねるうちに次第に自治協議会の必要性などにも気づいてもらい、どうにか合意を得るに至ったという経緯がある。細部にわたってまではなかなか理解は行き渡らないが、今後も意識の醸成に重点を置いて進めていきたい。まちづくりについてはまず2年してもらい、合わないと思われればそこで線を引き、魅力を感じてもらえたなら2年のいわば義務教育だけではなく高等学校さらには大学へと進学するように続けていってもらえればという感覚で個人的には思っている。</p>
<p>委員</p>	<p>西脇区まちづくり委員会は部会に分かれて様々な活動を行っているが、地区整備部会が中心となり他のまちづくり先進地に赴き研修するなど地域コミュニティの活性化に向けた活動に前向きに取り組んでいる。一方でどの世界でもあるとは思いますが、後継者を育てていくという意識の中で活動を進めていかなければならないと思っており、横のつながりを作っておかなければ後継者の育成もうまく進まないと思うので、そのような意識を持ちながら活動を進めているところではないかと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>比延地区、黒田庄地区は特に活発に活動を進められ、頭の下がる思いでいる。私自身はいろいろとボランティア活動をやっている中でウォーキングのイベントの企画実施もしているが、メンバーの高齢化とともにいよいよ継続できないようなことになっている。やはり継続していくための後継者ができないというのがネックとなっている。地域のまちづくりについても同じようなことが言えると思うが、地域自治協議会の活動は簡単にやめるといふ訳にはいかないと思うので、やはり後継者づくりというものは一番の課題ではないかと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>私は西脇区に住んでおり、以前は地区のまちづくりにおいてい</p>

委員	<p>ろいろと活動していた。世代の交代の中で一線は退いたが、現在は妻がいろいろなところに顔を出している。今後も私にできることがあれば西脇地区のまちづくりを応援していきたい。</p> <p>私は芳田ふれあい会議の事務局長をしているが、いろんな会の前には事務局会を開催し、会の進め方や方向性など事務局の意思統一を図るようにしている。芳田ふれあい会議の事務局は私の下に40代の方が2人おり、比較的若い事務局と言える。ただ、若い人が担っているから大丈夫かと言われるとそうでもなく、やはりこの先も次から次へといろいろな団体で経験された方に声を掛け続けなければと思っている。私はまちづくりが面白いと思って続けているが、同じように面白いと思える人間をどれだけ作れるかだと思っている。芳田ふれあい会議では昨年プロジェクト部会で公共交通の課題を取り上げて議論を重ねたが、デマンド型交通の導入について市へ要望書を提出した。それに関して市の公共交通会議で協議をしていただき、結果として西脇市全地区でデマンド型交通を導入するという方針につなげることができた。私たちの地域にとって公共交通に関する課題は大きく切実な問題で、そこに改善策を持っていくことができたというのは私たちのまちづくり活動の大きな成果だと思っている。このようなことを積み重ね、住民の皆さんに知らせていくというのも地域コミュニティの活性化の中で非常に重要なことかと思う。</p> <p>芳田地区では平成27年度に地区まちづくり計画を再編したが、実際にできることできないことを含めてギャップが出てきている。また、地域の活動拠点もどうしようという中で、コミュニティセンターの整備も芳田地区として要望していこうと議論を重ねている。その中でまず地区まちづくり計画を現実に即した形に見直しをしていこうという話を進めている。そのような流れの中で、地域の課題を見直す中で、課題を解決するためには組織についても最適な形で進めていくようにと地域自治協議会の設立についての議論にもつながると思っている。この審議会で皆さんのお話を聞きながら、またアドバイスをいただきながら進めていければと思っているのでよろしくお願ひしたい。</p>
会長	<p>重要なポイントを多く出していただいた。特に公共交通の課題を地域で話し合い、市へ提案し、結果として全市的な課題としての検討への動きにつながったということは非常に素晴らしい提言力で、課題を掘り下げ、地域だけにとどまらない課題として解決に向けた大きな力を引き出したということになる。そのようなことができる芳田ふれあい会議の活動が地域を支えていると思う。</p>
委員	<p>私は実際に比延地区の事務局として働いているが、始めるきつ</p>

	<p>かけとなったのは地域の方に誘われ何もわからないまま始め、紹介していただいた方に迷惑を掛けないようにと一生懸命やっていた。その時期にちょうど地区まちづくり計画の再編を行い、様々な活動をされているということを知っていった経緯がある。それ以降、会長をはじめボランティアの皆さんなどが自らががんばっておられるにもかかわらず、事務局をしっかりと評価していただけるということがやりがいになっている。自分が働くことで地域のまちづくりが動いていく、まちの様子が変わっていくのが目に見えるというのも面白さの醍醐味でもある。それとは別で重春・野村地区の事務局もしているが、そこでは30代も含め若い世代4名で事務をしている。比延地区でも重春・野村地区でも現在では兵庫県の最低賃金以上の賃金を支払えるようになった。職員は皆、一般企業等に就職すれば自分のために現在より多く稼げる能力のある人材ばかりだが、地域やNPOなどで地域を良くしていくために働くことは楽しいことだということを知っているから頑張れるのかと思う。私も教えていただいたように、若いスタッフたちが仕事として地域のまちづくりに携わり、面白いと思いつながりながら続けていけるよう支えていきたいと思う。</p>
<p>会 長</p>	<p>自分が動けばまちが動くという仕事自体の面白さや、手当てをもらい仕事として携われるからこそ心おきなく時間を費やせるということは非常に大事なポイントだと思う。</p>
<p>委 員</p>	<p>現在第一線で積極的にはまちづくり活動に参加できていないが、最近地域の若い世代のメンバーでイベントの企画をやり始めている。それは地域の子ども会の役員など関わりのある人が集まっているが、ゼロから作っていくことの難しさは痛感している。話し合いをする中で、何のためにやっていくかというところで意見がまとまらなかつたりする。そういったことから考えると、ゼロから新しいものを作るよりは、今ある地域の組織などをどう結び付けていくかを考えなければ、継続的なまちづくりは困難になると思う。イベントを一つやって終わるということも十分考えられる。そのため、地域自治協議会のもと様々な地域内の組織が連携しながら、目的を明確にした上でシンプルに進め、今よりもどうしたら楽にできるかという視点も持ちながら実施していくことが継続的な活動につながると思う。</p>
<p>委 員</p>	<p>私は昨年まで2年間、集落内の仕長をしていたが、会議をしてもまず区長が地域自治協議会の運営委員会等で聞いてきたまちづくりの話の説明ができず、集落の役員等に共有できないということがあった。区長も2年で交代され、地域内で共有できていなければ新たな区長になればまたはじめからになり、なかなか住民</p>

<p>委員</p>	<p>の理解が進まないため、何か良い方法がないかと思っている。</p> <p>全国的な動向で、過疎地域の集落支援を進める一方でコンパクトシティとして都市部へ住民を集めていく取組も見られるが、私としては過疎地域に住み続ける人がいる以上、生活機能の維持や活性化に対してできる活動は参加していきたいと思っている。</p> <p>私は津万地区のまちづくりに、十数年前に「生き生きTUMA協議会」を立ち上げた時から関わらせてもらっているが、まちづくりの計画づくりから始め、活動を発展させながら進んできた。考えると皆さんに活動を知ってもらえるまでに10年はかかったと思う。今、津万地区で地域自治協議会を立ち上げる動きを段階的に進めているが、まちづくりの総会や会合、イベントなど様々なところでアナウンスをし、広報紙にも載せているもののなかなか周知が進まない。地区内の全住民に知らせるために、各区長は責任をもって説明しようとなったものの、現実には難しい。また、生き生きTUMA協議会の役員なりが説明に回るというのもまた難しい。先ほど比延地区、黒田庄地区の合意形成のお話をお聞きしたが、同じように合意形成の筋道を立てて進めていこうということころまではきている。これまでは4部会制で考えていたが、急ぎ若い世代が中心となった第5の部会ができた。非常に嬉しいことだ。10年以上まちづくり活動を続けている方も残っている中で、現役員の部会、旧役員のおB部会、若者世代の部会が一本につながっているというのが津万地区の強みと思っている。</p> <p>地域自治協議会を立ち上げるに当たり、全住民に一気に理解を促すというのはなかなかできることではない。委員がおっしゃるように時間をかけながら合意形成の筋道を立て、活動をもって興味を持ってもらうのも一つだし、地道に考えなければ難しいことも多々あると思う。人材においては長年携わってこられた方がまだまだこの先も含めてつながりを持ち、お力添えをされ、皆で進めていけるという体制については安心するところだと思う。若い世代や長く活動されてきた世代とお互いに話を聞き合えば、いろいろなヒントが得られるのではないかと思う。その点も住民が集う地域自治協議会の強みの一つかと思う。</p>
	<p><b>○その他</b></p> <p><b>今後の予定について</b></p> <p>(1) 第4回審議会の日程について</p>
<p>問合せ先</p>	<p>都市経営部まちづくり課</p>